

モデルの道端アンジェリカさんは、「肌が汚い」という彼女に対するネット上の中傷を見かけ、自身のSNSに加工なしのすっぴん写真を投稿し、乾癬（かんせん）という慢性の皮膚疾患に冒されていることを公開した。彼女のこの勇気ある告白により、同じように皮膚の病気を患う多くの人たちから「励みになった」という声が寄せられた。

日本には約10万～20万人の患者がいるとされる乾癬の症状は、皮膚が赤く盛り上がり、白いかさぶたのような皮膚片が表面からポロポロとはがれ落ちるのが特徴。免疫力が関係しており、遺伝やストレス、食生活や外的刺激など様々な要因で発症するが、原因はまだ明確には解明されておらず根治が非常に難しい。日本で認知度が低いこともあり、“かんせん”と言う発音から伝染病であると誤解されたり、症状が目に見える形で現れるため差別やイジメの対象にもなりやすい。アンジェリカさんも完治には至っておらず、テレビ出演時はメイクで隠しているそうだが、芸能界には他にも乾癬に苦しむ人たちが少なくなく、中には症状を抑える為に服用していた免疫抑制剤の副作用で重体に陥った人もいる。まさに乾癬は、体も心も追いつめる病と言えよう。

実は聖書には皮膚病に苦しむ人々が大勢登場する。今から約3500年前に書かれたレビ記13章にはあまり役に立つとも思えない対処法などがつらつらと書かれていたりもするが、それがかえって当時の罹患者の苦勞を鮮明に浮かび上がらせてしまう。しかしその約1500年後、キリストの来臨によって状況は一変した。イエスは我々の罪の身代わりとなって十字架にかかるのみならず、およそ人が経験する全ての不条理以上の苦しみや孤独を味わわれた後、殺され、復活し、

「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」

ヘブル人への手紙13章5節、

と今日に至るも我らを励まし、病氣や疎外感に苦しむ者に手を差し伸べ続ける。

2017-6-22

